式 辞

降り積もった雪もようやく溶けはじめ、暖かい日差しが春の気配を運ぶ今日の佳き日に、安平町長及川秀一郎様をはじめ、多くの皆様の御臨席を賜り、保護者の皆様とともに卒業生の門出を祝福できますことは、私ども教職員にとりましてこの上ない慶びであり、心より厚く御礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与いたしました第70期生、22名の3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。本日、めでたく卒業の日を迎えることができましたことは、一人ひとりが3年間たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であることは言うまでもありません。毎日真剣に臨んだ授業、クラスが団結・協力した行事やボランティア活動、互いに切磋琢磨し合った部活動、高い目標を持って取り組んだ進路活動など、積み重ねてきた努力は、数え上げればきりがありません。

その努力に対し、心から拍手を送ります。ぜひ今日は自分を存分にほめてください。それと同時に、友人や先輩後輩、お世話になった方々、そして何より、これまで支え続けていただいた御家族に感謝の気持ちを言葉で表してください。

さて、皆さんを取り巻く社会は、日々変化し続けています。特に、世界各地で起きている戦争や紛争、国内では元日の能登半島地震や気候災害など、想定や予測が困難な状況が次から次へと起きています。

私は、これからの社会を生きぬくには「課題を的確に捉えて解決する力」を持つことが重要だと考えています。大きく変化する社会では、つきつけられる課題も多様化しています。まずは自分の身近にある課題を捉え、一つずつ解決していく方法や手順を

身につけてください。それができたなら、次は地域や社会へ目を向けて人々の幸せのために力を発揮して頂きたいのです。皆さんは、すでに先月行われた学習成果発表会で安平町や追分高校が抱える課題とその解決策を提言しています。それらのアイデアのいくつかは、近い将来実現することでしょう。

このような前向きな姿勢を持ち続け、さらに充実した人生を送るためにも、卒業の区切りである本日を、その決意をしっかりと固める最初の日にしてください。

また、社会を生き抜く上では、本校の校訓も皆さんの大きな道しるべであり続けます。社会の変化は、自分の手で未来を創り出す大切な機会であるとも言えるのです。どうか卒業後もこの三つの言葉「自律・誠実・実践」を忘れずに自分の道を自身の手で切り拓いてください。皆さんが、より強くたくましく、幸せな人生を歩まれることを祈っています。

ただ、ときには、高い壁が立ちはだかることもあるかも知れません。嬉しいときはもちろん、悲しいとき、あるいは迷ったとき、そのようなときは、いつでも追分高校を訪れてください。3年間過ごした「丘上の学び舎」は、皆さんを温かく迎え入れます。

終わりにになりますが、この日を心待ちにしていた保護者・ご家族の皆様の、これまでの御支援に深い感謝と、共に慶び合い、さらに卒業生の未来に幸多かれとお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和6年3月1日

北海道追分高等学校長 石 若 拓 哉